

文学部の卒業論文指導申込みに際しての諸注意

(2019.3)

この「諸注意」には、文学部で卒業論文を書く学生諸君のために、指導申込みに先立ち、卒業論文のテーマを決定し、実際に卒業論文指導調査票を記入する際の注意事項が示されています。卒業論文は大学教育の根幹です。卒業論文を作成するためには、テーマや方法を明確にし、十分な準備をする必要があります。準備不足のまま卒業論文指導調査票を提出しても、「再提出」や「予備指導」となり、本指導の開始が半年以上遅れることがありますので、卒業論文指導の申し込みを考えている学生諸君は、以下の「諸注意」を熟読した上で、卒業論文指導調査票を作成してください。

文学部の通信教育課程を構成する3つの類は、通学課程の17の専攻と以下のように対応しています。

第1類—哲学、倫理学、美学美術史学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学

第2類—日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学

第3類—国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学

通信教育課程に所属する学生の卒業論文指導は、慶應義塾大学の専任教員が担当しますが、担当教員の選定は、卒業論文指導調査票に記載された内容をもとに、主に文学部に所属する教員の中から行われます。

適切な指導教員に巡り会うことは、卒業論文を完成させるために大きな意味を持ちます。自分のテーマを決めるときには、どのような専攻にどのような教員がいるかということについても配慮してください。

文学部に所属する全教員の専門分野は、『文学部専任教員一覧』(希望者に実費頒布)で知ることができます。また、慶應義塾ホームページの「研究業績・教員情報」からは、慶應義塾に所属する全教員の研究情報を検索することができます。

また『三色旗』には、「卒業論文紹介」や「卒業論文作成の手引き」など、卒業論文に関するさまざまな記事が連載されていますので、ぜひ参考にしてください。

(文学部代表学務委員 西川 尚生)

第1類

【哲学専攻】

哲学はその学問の性格からして、専門の範囲を狭く限るようなことはできません。哲学専攻では教員のそれぞれが自ら重大と考える主題を、同じく自ら適切と考える手続に基づいて研究しています。しかし、このことは各自が勝手なことを勝手にやっているということを意味するものではありません。自主的に選択するということは、逆に、自らの選択に責任をもつことを意味し、自らの選択を人々に納得させる努力が要求されるということの意味です。卒業論文執筆を希望する学生諸君にまず承知しておいていただきたいことは、皆さんも、基本的には、私たちスタッフに課せられているのと同じ種類の責任と努力が課せられているということです。以下に、過去の経験から割り出された、卒業論文作成のコツとでもいうべきものを、二、三挙げておきますので、上記の点に十分留意した上で、参考にしてください。

- ① テーマを絞りに絞ること。書けなくなって困っている人の原因の大半は、テーマの限定不足にあります。テーマがきっちり限定されるということは、目標がはっきり定まり、その目標に到達するための手段が明瞭になるということの意味です。テーマが大きすぎたり、漠然としすぎたまま卒業論文に着手することは、目的地も交通手段も定まらないままに旅を始めるようなものです。
- ② テーマに合った教員を捜し出すこと。そのためには『卒業論文の手引き』や『文学部専任教員一覧』等によって専門分野を調べる事が大切です。さらに大切で効果的なのは、スクーリングの機会を最大限に活用して、教員の問題意識や思考の進め方に直に触れて、自分に一番合うと感じるガイド役を見つけ出すことです。専攻所属教員とそれぞれの専門分野は以下の通りです。

荒畑 靖宏	：	言語と心の哲学、解釈学
上枝 美典	：	西洋中世哲学
岡田 光弘	：	論理哲学、論理学、推論と論理思考の科学
柏端 達也	：	行為論、現代形而上学
金子 善彦	：	西洋古代哲学
斎藤 慶典	：	現象学、西洋近・現代哲学
田中 泉吏	：	科学哲学

- ③ 卒業論文の提出期限を自ら定めること。文筆の専門家でも「締め切り」がないといつまでも書けないという人をよく見かけます。それと同じで、出来た時に出せばいいというのでは、なかなか書けないものです。自分で自分に「締め切り」を設けることで、自分を奮い立たせる必要があります。もちろん無謀な予定表を組んでは何にもなりませんから、「締め切り」をいつにするかは、自分の能力や学習状況および指導教員と相談の上でということになります。

【倫理学専攻】

1 倫理学について

倫理学は人間の生き方や社会のあり方について考える学問ですが、その方法は大きく二つに分かれます。一つは、古今東西の思想家との対話を通じて、人間の生き方や社会のあり方を探究するものであり、もう一つは、現代のさまざまな問題を手がかりにして、近代の人間観や社会観を検討するものです。

2 所属教員と専門分野（卒業論文テーマを選ぶときの参考にしてください。）

石田 京子	ドイツ倫理思想・法哲学
ヴォルフガング・エアトル	倫理学史、形而上学、現代倫理学
柘植 尚則	イギリス倫理思想史、経済倫理学
奈良 雅俊	応用倫理学、医療倫理学
村上 暁子	フランス現代思想、宗教思想
山内 志朗	西洋中世・近世思想、倫理学と形而上学

3 卒業論文指導申込みに際しての諸注意

- 1) 原則として、テキスト開講科目「倫理学」「現代倫理学の諸問題」、スクーリング開講科目「倫理学(総合)」「倫理学(専門)」のうち、いずれかの単位を取得していること。
- 2) 初回の指導までに、「4 参考文献」にあげた入門書・概説書のどれかを通読しておくこと。
- 3) 初回の指導に際して、問題関心やテーマを明確に示すこと。取り上げたいテーマや思想家の文献に、あらかじめ目を通しておくことを希望します。

4 参考文献

倫理学の入門書・概説書としては、次のものがあります。

『倫理学案内』小松光彦・樽井正義・谷寿美(編) 慶應義塾大学出版会、2006年

『小さな倫理学入門』山内志朗、慶應義塾大学出版会、2015年

『プレップ倫理学』柘植尚則、弘文堂、2010年

『入門・倫理学の歴史—24人の思想家』柘植尚則(編著)、梓出版社、2016年

『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』J・レイチェルズ、晃洋書房、2003年

三田哲学会のホームページに、「学生のための文献案内」が掲載されています。

こちらも参考にしてください。

<http://mitatetsu.keio.ac.jp/>

【美学美術史学専攻】—美学・美術史学・音楽学に関するテーマ—

1 美学美術史学専攻について

a 専攻内で研究可能な分野

*原則的に、以下の分野の研究が可能ですが、現有スタッフの専攻分野も考慮に入れてください。

美学 (美や芸術一般に関する原理的・哲学的考察): 美学、一般芸術学

美術史 (造形芸術(絵画・彫刻・建築・工芸等)に関する理論的・歴史的考察):

美術理論、西洋美術史、東洋美術史、日本美術史

音楽学・音楽史 (音楽(歌曲・器楽曲・オペラ等)に関する理論的・歴史的考察):

音楽理論、西洋音楽史、日本音楽

b スタッフ紹介

林 温 : 日本美術史 (古代中世・仏教美術史)

遠山 公一 : 西洋絵画・彫刻史 (イタリア・ルネサンス)

望月 典子 : 西洋美術史 (フランス絵画)

内藤 正人 : 日本絵画史 (近世絵画)

西川 尚生 : 音楽学 (18～20 世紀の音楽)

後藤 文子 : 西洋美術史 (ドイツ近代美術)

金山 弘昌 : 西洋美術史 (イタリア・バロック建築)

福田 弥 : 音楽学 (ロマン派の音楽)

中尾 知彦 : アーツ・マネジメント

2 卒業論文のテーマの選択に際しての注意

a 必読書

*美学・美術史学・音楽学関係のテーマで卒業論文を提出しようとするに先立って、各分野について、少なくとも以下のような、学会の機関誌、および、概説的文献に目を通しておくことを希望します。

美学: 美学会編 『美学』1950～.

竹内敏雄編修 『美学事典[増補版]』 弘文堂、1974.

佐々木健一 『美学辞典』 東京大学出版会、1995.

小田部胤久 『西洋美術史』 東京大学出版会、2009 年.

美術史: 美術史学会編 『美術史』1950～.

『美術大全集(東洋編・西洋編)』(全 30 巻) 小学館、(1992～).

吉川逸次監修 『西洋美術史』 美術出版社、1977.

E. H. ゴンブリッチ 『美術の歩み』 (上・下) 友部訳、美術出版社、1983.

辻 惟雄監修 『日本美術史』 美術出版社、1991.

前田耕作監修 『東洋美術史』 美術出版社、2000.

ネルソン/シフ編 『美術史を語る言葉』 ブリュッケ社、2002.

小佐野重利・小池寿子・三浦篤編 『西洋美術の歴史』 全 8 巻、中央公論新社、2016-2017 年.

音楽学: 音楽学会編 『音楽学』1954～.

『ニューグローブ世界音楽大事典』 講談社、1993.

D. J. グラウト/C.パリスカ 『新西洋音楽史』(上・中・下)戸口他訳、音楽之友社、1998-2001.
C. ダールハウス 『音楽美学』 杉橋訳、シンフォニア、1989.
文献について、詳しくは、三田哲学改変会編 『哲学別冊の文献案内』
(<http://flet.keio.ac.jp/~bibiken/mita-tetsu/>)を参照してください。)

b 卒業論文指導調査票の記入に関する注意

* 第1回目の「卒業論文指導調査票」の記入に際しては、特に、以下の点に注意してください。

研究対象については、「東洋美術」とか「西洋音楽」というように漠然と示すのではなく、ジャンル、時代、様式、作家、作品、等を限定し、具体的に示すこと。

さらに、何故それをテーマに選んだのか、それについて、どのようなことを明らかにしたいのか、そのためには、どのような方法を用いるのか、をできるかぎり明確に記すこと。

3 論文作成に関する一般的な注意

a 芸術を愛好することと研究することの違い

* 芸術作品を愛好することと、それについて学問的に研究することとの相違を多くの研究論文を読み、そのスタイルに慣れることによって、はっきりと自覚するよう心がけてください。

b 研究論文の性格

* 研究論文は、単なる個人的な意見の表明や個別的な作家・作品に関する批評・評価とは異なり、研究上意義のある問題について、論拠を挙げ、論証の手續を踏んで、解明することであり、そのためには先行研究の批判的な検討が不可欠であることを理解してください。(卒業論文の分量や書式については、指導教員から指示を受けてください。)

4 その他

a 卒業論文提出までの期間について

* 通信教育で卒業論文を提出する場合、面接指導の機会が年2回に限られていることもあり、通学制に比べて長い指導期間を要することを承知しておいてください。

b 面接指導について

* 面接指導に際しては、参考文献やノート等を持参するとともに、具体的な質問事項を用意して臨み、貴重な機会を有効に活用するよう心がけてください。

【図書館・情報学専攻】

1. 図書館・情報学分野で卒業論文を執筆し、学士(図書館・情報学)の学位授与を受けようとする学生は、次の点に留意してください。

- 1) スクーリング科目の「図書館・情報学」(2単位)を取得していること。
これは、夏期スクーリング・夜間スクーリングのいずれでも構わない。
- 2) 卒業論文の個別指導は、通常、初回を含めて3～4回以上受けることになるので、指導開始から卒業まで、少なくとも2年を予定しておくこと。
- 3) 初回の指導を受けるまでに、できるだけ関連文献や資料、情報を収集し、それらを読み、基本的な知識を得ておくこと。また、三田・日吉キャンパス等の大学図書館や地元の公共図書館等における関連資料の所蔵状況や入手方法を確認しておくこと。
- 4) 初回の指導を受ける際に、問題意識、テーマ設定の趣旨・目的・方法等について、その概要を示すこと。なお、その内容によっては、他に適当な指導教員を紹介することがある。

2. 図書館・情報学専攻の教員の専門分野は、おおよそ次のようなものです。
卒業論文テーマと指導教員を選ぶ際の参考にしてください。

安形 麻理 : 書誌学、デジタルアーカイブ
池谷のぞみ : 情報システムデザイン論、サービスデザイン論
岸田 和明 : 情報の蓄積と検索
倉田 敬子 : 学術コミュニケーション、情報メディア論
谷口 祥一 : 情報と情報資源の組織化
根本 彰 : 図書館基礎論、情報文化論
松本 直樹 : 図書館行政、図書館政策

3. 参考文献

- | | | | |
|---------------------------------|---------------|------|--------------|
| 『図書館情報学(第2版)』 | 上田修一、倉田敬子編著 | 2017 | 勁草書房 |
| 『グーグル ネット覇者の真実』 | スティーブン・レヴィ | 2011 | 阪急コミュニケーションズ |
| 『知の広場:図書館と自由』 | A.アンニョリ | 2011 | みすず書房 |
| 『デジタル書物学事始め』 | 安形 麻理 | 2010 | 勉誠出版 |
| 『メディア文化論:メディアを学ぶ人のための15話』 | 吉見 俊哉 | 2004 | 有斐閣 |
| 『つながる図書館:コミュニティの核をめざす試み』 | 猪谷 千香 | 2014 | ちくま新書 |
| 『走れ! 移動図書館:本でよりそう復興支援』 | 鎌倉 幸子 | 2014 | ちくまプリマー新書 |
| 『図書館は市民と本・情報をむすぶ』 | 池谷のぞみ [ほか] 編著 | 2015 | 勁草書房 |
| 『情報リテラシーのための図書館:日本の教育制度と図書館の改革』 | 根本 彰 | 2017 | みすず書房 |
| 『公共図書館運営の新たな動向』 | 日本図書館情報学会編 | 2018 | 勉誠出版 |

【社会学専攻】

現代社会の構造や社会関係を解明し、多様な文化を把握して、そこに生きる人間像を総合的に明らかにしようとする専攻です。社会学とともに、社会心理学、文化人類学などの領域を含み、理論的・実証的研究を行なっています。なお社会的なテーマでの卒論執筆については、人間科学専攻のスタッフや、テーマによっては他学部のスタッフも指導にあたる場合があります。

1、スタッフ紹介

李 光鎬 : コミュニケーション学 (マスコミュニケーション研究を含む)、普及学
岡原 正幸 : 感情社会学、生の社会学、障害学、アート文化実践
岡田あおい : 家族社会学、家族史
檜尾 直樹 : 宗教学、宗教社会学
杉浦 淳吉 : 社会心理学、環境心理学
竹村 英樹 : 教育社会学、社会調査史
近森 高明 : 文化社会学、都市社会学、歴史社会学
三尾 裕子 : 文化人類学
森川 剛光 : 社会学理論、社会学史、社会科学の哲学

2、参考文献

A.ギデンズ 『社会学』、而立書房、1998。
藤田・西原 編 『権力から読み解く現代人の社会学入門』増補版、有斐閣、2001。
P.ブルデュール 『社会学者のメチェ』藤原書店、1994。
斉藤 勇 編 『対人社会心理学重要研究集 1～5』誠信書房、1987。
日本社会心理学会 編 『社会心理学事典』丸善、2009。
M.ヒューストン 他 『社会心理学概論 I・II』誠信書房、1974。
青池慎一・榊博文編著 『現代社会心理学』慶應義塾大学出版会、2004。
『岩波講座 文化人類学』(全13巻) 岩波書店、1996～1997。
日本文化人類学会編 『文化人類学事典』丸善、2009。
波平恵美子編 『文化人類学 カレッジ版』第3版、医学書院、2011。
関一敏・大塚和夫編 『宗教人類学入門』弘文堂、2004。

3、卒業論文指導調査票の記入について

みなさんのテーマにふさわしい指導教員を決めるために必要です。書きたいと思っていること、関心のあることがあなたの「テーマ」になります。論文にしやすいのか、論文になるのか、といった疑問はまずは埒外においておきましょう。テーマを絞り込む必要もありません(論文を書き進めることが絞り込みそのものだからです、書き始める前に絞り込むのは無理でしょう)。それから、論文のテーマについてどのようなアプローチをしようと思っているのか、文献研究なのか、現地調査(観察からインタビューなど)をしたいのか、実験をしたいのか、どのような既存の資料を扱いたいのか、あるいはどのような理論に依拠したいのか、といった事柄を、わかる範囲で書いてください。その際に、参考になる、参考にした文献や講義は何だったのかを明らかにしてください。最後に、なぜそのテーマを扱いたいと思ったのかを自分の言葉で書いてください。また希望する教員と連絡を取り、指導に

ついて内諾をとることも事前に行う作業として認められます。

4、論文を書くこと

論文とは特定の形式で言語を使うことに他なりません。その最たるものが、自分の主張や言いたいことを根拠づけるということです。論拠をあげよ、とはこのことです。他の研究者の主張を引用するのも、資料を提示するのも、自分でほかの人から話を聞いたり、質問紙に答えてもらったりするのも、自分で現地の観察をしたり写真を撮ったりするのも、すべて、自分の言っていることに証拠をつけるためです。文献や調査結果は、そこから何か新しい知見を引き出す源ではあるのですが、逆の言い方をすれば、自分の論文の主張を根拠付けるために論文の中に配置されるといってもいいのです。さて、肩の力を抜いて、ご自分の興味がどこに向いているのかに思いをさせてください。具体的な方法についてはそれぞれの指導教員に尋ねるといいでしょうが、同時に、いわゆる学術論文や著作を前にして「真似る」という作業も大事です。茶道やいけばなの型にも通じます。

【心理学専攻】

心理学は非常に多様な学問領域で、研究の対象も広範囲にわたっています。また、学問の進歩とともに領域の細分化も進んでおり、塾の教員が心理学のすべての領域をカバーすることは不可能であるのが現状です。

したがって、まず重要なことは自分が取り組みたい領域の指導が受けられるかどうかを調べる、ということです。とりあえず卒業論文指導調査票を出してもらってもかまいませんが、カバーできない領域の場合、予備指導を行ったり、テーマ変更を求められる場合もあり、卒業論文の着手が遅れることもあります。

また、あらかじめしておかなければならない勉強に関しても、領域や研究のスタイルによって大きく異なります。どのような研究をするにしても、心理学の基本的な考え方を知るために、心理学Ⅰ・Ⅱ(特にⅠ)、総合教育科目の心理学(スクーリング)、およびテーマと関連するスクーリング科目(専門教育科目)の履修は、指導に入る前にすませておくのが望ましいでしょう。少なくとも関連する2, 3冊の本を読むことは当然必要ですが、その場合にも自分の関心に近い領域のものと、心理学全般に関するものを読んでおくように心がけるとよいでしょう。

それに加えて、調査や実験を伴う研究を行う場合には、統計学の基礎を身につけておく必要があります。(着手してから勉強することも不可能ではありませんが、論文完成までの期間は長くなるかもしれません。)臨床心理学的な研究を希望する学生も多いのですが、現在のところ指導できる教員が少ないことに加え、技術を習得すること、研究のフィールドを確保することなど、困難な問題が多くあります。卒業論文に着手する段階で既に臨床的な技術を身につけていて、職場などでケースを持っている人以外は、現実はきわめて困難であると考えてください。

心理学の研究を目指す人は、心理学についての知識を身につけると同時に、塾でどのような研究が行われているのか、通信教育課程の卒業生がどのような卒業論文を提出しているのか、などについて情報を収集するよう心掛けてください。機会があれば教員に話を聞くなどするとよいでしょう。自分一人の思い込みに固執して時間を無駄にしないよう、卒業論文に取り組んでください。

【教育学専攻】

教育学専攻では、①教育哲学(西洋)、②教育史(日本)、③比較教育学、④教育心理学、の各領域(私たちはこれを「四本柱」と呼んでいます)を基軸とする研究・教育活動を展開しています。現在7名で構成されている専任教員の研究領域も、この四本柱に対応しています。したがって、この領域以外のもの(例えば、学校教育学、教育行政学、教育経営学、教育方法学など)については、十分な研究指導を受けることが困難となる場合があります(ただし、学生の研究テーマによっては教職課程センターの専任教員の指導を受けることもあります)。卒業論文指導を受ける前提として、このことをよく理解しておいてください。

1. 初回指導を受けるにあたっての留意事項

(1)卒業論文の研究として相応しくないもの

論文は、個人的な作文とは異なります。論文は、自己の設定したテーマを仮説として組み立て、その妥当性を客観的・実証的に検証することを要件とします。自身の研究が、以下のような傾向に陥らないように注意してください。

- a. 単なる個人的意見の表明にすぎないもの(「いじめ」や「不登校」あるいは「現代教育批判」などの教育問題をテーマにしようとする学生にこの傾向が顕著です。)
- b. 既存文献の要約に終始するもの(いわゆる概論や通史的なテーマを設定した場合に、それに関するテキストの要約で終わってしまう場合が少なくありません。)
- c. 研究方法について無自覚なもの(自分の研究テーマが文献研究だけでできるのか、それとも実地調査や実験などを必要とするのか、に関する見通しさえ立てられていないものが少なくありません。)

(2)研究テーマ設定への手順

- a. 研究テーマの絞り込み(研究テーマは絞り込みができていればできているだけ望ましいといえます。そのためには自分なりの論点が明確にされていなければなりません。)
- b. 研究方法の明確化(文献研究であれば、その文献の入手や閲覧の方法を、調査研究や実験研究であれば、その方法と手順を具体的に示す必要があります。)
- c. 先行研究の探索と検討(自分なりの論点や研究方法を明確にするためにも、先行研究の調査とその批判的検討は不可欠の作業です。)
- d. 論文構成の骨格づくり(簡単にいえば目次づくりです。しかし、この作業を怠ると論文全体の構成が系統だったものにならず、その結果、同じ記述が何度も繰り返されたり、ある記述が論文全体にうまく位置づけられなくなったりする、などのケースが生じます。)

2. 専任スタッフとその専門分野

安藤寿康	： 教育心理学、行動遺伝学、双生児研究、進化教育学
藤澤啓子	： 発達心理学、教育心理学
眞壁宏幹	： 人間形成論、ドイツ近現代教育思想史、ワイマール期芸術教育思想研究
松浦良充	： 比較大学史・大学論、高等教育思想史、アメリカ教育史
山梨あや	： 日本教育史、社会教育史
山本正身	： 日本教育史、日本教育思想史、江戸儒学史
渡邊福太郎	： 教育哲学、教育思想

3. 参考文献

<教育学全般>

松浦良充編『現代教育の争点・論点』一藝社、2015年。

広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店、2009年。

田中克佳『教育学』慶應義塾大学出版会、1993年。

村井 実『教育学入門(上)(下)』講談社、1976年。

<教育哲学>

教育思想史学会編『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房、2017年。

渡邊福太郎『ウィトゲンシュタインの教育学——後期哲学と「言語の限界」』慶應義塾大学出版会、2017年。

眞壁宏幹編『西洋教育思想史』慶應義塾大学出版会、2016年。

ミヒヤエル・パーモンティエ著／眞壁宏幹訳『ミュージアム・エデュケーション』慶應義塾大学出版会、2012年。

クラウス・モレンハウアー著／眞壁宏幹他訳『回り道——文化と教育の陶冶論的考察』玉川大学出版部、2011年。

田中克佳編『「教育」を問う教育学』慶應義塾大学出版会、2006年。

<教育史>

沖田行司編『人物で見る日本の教育〔第二版〕』ミネルヴァ書房、2015年。

山本正身『伊藤仁斎の思想世界——仁斎学における「天人合一」の論理』慶應義塾大学三田哲学会叢書、2015年。

山本正身『日本教育史——教育の「今」を歴史から考える』慶應義塾大学出版会、2014年。

山梨あや『近代日本における読書と社会教育』法政大学出版局、2011年。

<比較教育学>

山田肖子・森下稔編『比較教育学の地平を拓く——多様な学問観と知の共働』東信堂、2013年。

日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂、2012年。

馬越 徹『比較教育学——越境のレッスン』東信堂、2007年。

有本 章編『大学のカリキュラム改革』玉川大学出版部、2003年。

<教育心理学>

安藤寿康『「心は遺伝する」とどうして言えるのか——ふたご研究のロジックとその先へ』創元社、2017年。

安藤寿康『遺伝と環境の心理学——人間行動遺伝学入門』培風館、2014年。

安藤寿康・鹿毛雅治編『教育心理学——教育の科学的解明をめざして』慶應義塾大学出版会、2013年。

安藤寿康『遺伝子の不都合な真実』有斐閣、2012年。

並木 博編『教育心理学へのいざない〔第3版〕』八千代出版、2008年。

【人間科学専攻】

現在、人間科学専攻に所属する教員はそれぞれの研究の場を心理学、社会心理学、社会学、文化人類学といった所においでいますが、そこに共通するのは「そうした既存の学問の枠組みを超えて、新たな学問の展開を目指そうとする研究姿勢(心意気)」です。

たとえば、面白そうな研究テーマであれば、学問の区割りにかかわりなく、手を染めてみようとする飽くなき好奇心といったものでしょうか。

「卒業論文で取りあげたいテーマが、どの学問領域に属すのか分からないが、是非このテーマで書きたい」という人は、一度相談してみてください。そうした熱意を活かす方向で指導ができるかもしれません。

もちろん、先に挙げた心理学、社会心理学、社会学、文化人類学といった分野で、従来の研究を踏まえた卒業論文を書きたいという人も歓迎します。

いずれにしても、卒業論文を書くのは学生自身です。教員はそうした卒業論文が学問として通用するかどうかを判断する最初の一人です。十分な準備をされたうえで卒業論文に取りかかれることを望みます。そのためには、①研究目的を明確にすること、②先行研究(同様なテーマで行われた関連研究)に目を通しておくこと、が必要です。

スタッフおよび主要専門分野は以下の通りです。

稲葉 昭英	: 家族社会学、社会福祉学、計量社会学
今井 芳昭	: 社会心理学、社会的影響
織田 輝哉	: 理論社会学、数理社会学、合理的選択理論
鹿又 伸夫	: 社会階層と移動、比較社会学
北中 淳子	: 医療人類学、多文化間精神医学
佐川 徹	: 文化人類学、アフリカ地域研究
菅 さやか	: 社会心理学、社会的認知
平石 界	: 進化心理学、社会心理学

第2類

【日本史学専攻】

1 スタッフ紹介	主要専攻分野
十川 陽一	古代史(法制史)
藤本 誠	古代史(仏教史)
中島 圭一	中世史
浅見 雅一	近世史(キリシタン史)
上野 大輔	近世史
井奥 成彦	近代史(社会経済史)
前田 廉孝	近代史(経済史・経営史)

2 参考文献

- ・ 日本史全般にわたるもの(以下から自己のテーマに関わる本(該当箇所)を数冊読んで、卒業論文指導調査票を作成する際に参考にすること)

『岩波講座日本歴史』1～22(岩波書店)、竹内誠他編『教養の日本史』(東京大学出版会)、『大系日本の歴史』1～15(小学館)、『日本の歴史』00～25(講談社)、『日本の時代史』1～30(吉川弘文館)

- ・ 各教員が推薦するもの(指導教授が決定した後、読んでおくことが望ましいもの)
 - 十川 陽一 大津透『律令制とはなにか』(山川出版社)
池田温編『日本古代史を学ぶための漢文入門』(吉川弘文館)
 - 藤本 誠 大久保良峻編著『日本仏教の展開:文献より読む史実と思想』(春秋社)
平川南『日本の歴史2 日本の原像』(小学館)
 - 中島 圭一 藤本久志『新版 雑兵たちの戦場』(朝日選書)
笠松宏至『徳政令』(岩波新書)
 - 浅見 雅一 高瀬弘一郎『キリシタン時代の研究』(岩波書店)
五野井隆史『日本キリスト教史』(吉川弘文館)
 - 上野 大輔 山口啓二『鎖国と開国』(岩波書店)
倉地克直『「生きること」の歴史学:徳川日本のくらしとところ』(敬文舎)
 - 井奥 成彦 石井寛治『日本経済史』(東京大学出版会)
橋本寿朗・大杉由香『近代日本経済史』(岩波書店)
 - 前田 廉孝 沢井実・谷本雅之『日本経済史:近世から現代まで』(有斐閣)
山本有造『日本植民地経済史研究』(名古屋大学出版会)

3 留意事項

- ・ 佐藤進一『新版・古文書学入門』(法政大学出版局)、日本歴史学会編『演習古文書選』全8冊(吉川弘文館)、藤本篤『古文書入門』(柏書房)などを手がかりに、日本史の基礎史料の読み方を自習しておくことが望ましい。

【東洋史学専攻】

A 専攻内で研究可能な分野

地域としては中国とその周辺および中東・イスラーム世界を中心としています。ただし、これ以外の地域、例えば朝鮮やインド等に関しては状況に応じて対処できないこともあります。

方法としては文献を用いたいわゆる歴史学に加えて、インタビューをまじえたオーラルヒストリーや民俗学的な分野もカバーします。

B スタッフ紹介

スタッフの氏名、職名および専攻は次の通りです。

岩間 一弘	教授	近現代東アジア交流史、食文化史、中国都市史
桐本 東太	教授	中国古代史、中国民俗学
長谷部史彦	教授	中東社会史、地中海交流史、
勝沼 聡	准教授	近現代中東社会史、アラブ近現代史
藤木 健二	准教授	オスマン帝国史、中東都市社会史

C 卒業論文指導調査票の書き方

以下の点を必ず挙げてください。

- アジアや中東の歴史をテーマに卒業論文を書こうとする動機と過程
- そのテーマで論文を書くことで何を明らかにしたいのか。
- 問題解決のために今まで何をしてきたか。
- 問題解決のためにどんな見通しがあると思っているのか。

D 必読図書

共通するものは特にありませんが、分野別に応じたいわゆる研究入門がいくつかあります。

- 山根幸夫編『中国史研究入門』全2巻(改訂版)、山川出版社、1991
- 岡本隆司・吉澤誠一郎編『近代中国研究入門』東京大学出版会、2012
- 中村元哉・大澤肇・久保亨編『現代中国の起源を探る—史料ハンドブック』東方書店、2016
- 水島司・加藤博・久保亨・島田竜登編『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会、2015
- 佐藤次高編『西アジア史1 アラブ』(新版世界各国史8) 山川出版社、2002
- 永田雄三編『西アジア史2 イラン・トルコ』(新版世界各国史9) 山川出版社、2003
- 小杉泰ほか編『イスラーム世界研究マニュアル』名古屋大学出版会、2008

E 卒業論文指導と並行して履修が望ましい専門科目

歴史学は総合的な学問であり、それぞれのテーマに応じて履修が望ましい周辺諸科学があるでしょう。

F 字数、作成期間、語学など

字数の制限はありませんが、歴史学の場合史料を提示して説明する形式を取りますので、他の論文に比べて長くなります。

史料収集とその分析に多くの時間を割きますので、最短でも2年以上を要します。

英語はもちろん対象とする地域の言語はできる方が望ましいでしょう。

G その他の留意事項

論文には論拠となる史料を提示しながら論を進めるという実証性を重視します。

【西洋史学専攻】

西洋史専攻で扱う時代・地域・テーマが多岐にわたるため、以下に各担当者の要望を記します。

吉武憲司

私が専門とする分野は、11・12 世紀イングランドの国制史(政治・行政史)です。卒業論文指導で望ましい範囲は、中世(5 世紀-15 世紀)のイギリス史です。この時期のイギリスに関して歴史的に適切なテーマならば、原則として受け付けます。

イギリス史以外では、テーマによって受け入れる場合とそうでない場合があります。傾向としては、政治・行政史・社会経済史を好みます。

卒業論文作成の段階で、英文の専門書を 1 冊は読み、可能なかぎり英訳史料に目を通すのが理想です。

卒業論文指導を受けるまでに、以下の科目について少なくともテキストの内容を熟読しておくようにしてください。

森岡敬一郎 『西洋史特殊Ⅲ-近代イギリス国家の成立(中世から近世へ)-』(通信教育教材配本テキスト 2002 年)

それと同時に、以下の文献も読んでおいてください。

服部良久他編『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世編]』(ミネルヴァ書房、2006 年)

青山吉信編『イギリス史(世界歴史大系)』1 卷(山川出版社、1991 年)

キング『中世のイギリス』(慶應義塾大学出版会、2006 年)

チャールズ=エドワーズ『ポスト・ローマ』(オックスフォード ブリテン諸島の歴史 2 卷)(慶應義塾大学出版会、2010 年)

ハーヴェー『12・13 世紀』(オックスフォード ブリテン諸島の歴史 4 卷)(慶應義塾大学出版会、2012 年)

グリフィス『14・15 世紀』(オックスフォード ブリテン諸島の歴史 5 卷)(慶應義塾大学出版会、2009 年)

神崎忠昭

私が専門としている分野は、ヨーロッパ中世におけるキリスト教についてです。もっと限定しているならば、「異端」や「修道士の霊性」が専門になります。しかし、このような分野でなければ、卒論指導を引き受けないということではありません。5 世紀頃から 15 世紀頃にかけての中世のキリスト教史、文化史が「指導範囲」になります。また南欧圏が好ましい地域です。

以上の分野はそれほど日本では研究が進んでいるわけではありません。何が問題となっているか、何が知っておくべき基本的知識であるかを示してくれる入門的な文献としては、例えば、以下のものがあります。適宜、精読しておいて下さい。

佐藤彰一[他]編『西洋中世史研究入門』(名古屋大学出版会、2000 年)

ヨーロッパ中世史研究会編『西洋中世史料集』(東京大学出版会、2000 年)

佐藤彰一[他]編著『西欧中世史』(上)(中)(下) (ミネルヴァ書房 1995 年)

ジャン・ダニエル[他]著 上智大学中世思想研究所編訳『キリスト教史』

全 11 卷(平凡社ライブラリー、1996-97 年)

山道佳子

私の専門は18～19世紀のスペイン(なかでもカタルーニャ)社会史・文化史ですが、近世から現代のスペイン史であれば指導可能です。指導を希望する場合には、日本語で読むことのできる文献(下記参照)を読み、具体的なテーマを絞った上で、相談してください。なおスペイン史で卒業論文を書こうとする場合に、日本語の文献だけではまず不可能ですから、英語文献やスペイン語文献を積極的に利用しようという意欲(と語学力)があることが前提となります。

スペイン以外の地域については、18世紀から19世紀の社会史及び広義の文化史で、他にその地域を専門とする教員がいない場合のみ受け入れます。下記のスペイン史の場合と同様の日本語の概説書を読み、同様に具体的なテーマを設定した上で相談してください。

【日本語で読めるスペイン史の概説書】

立石博高ほか『概説 近代スペイン文化史』(ミネルヴァ書房、2015年)

* 卒論で取り扱おうと考える時代やテーマに関わる章については、章末の参考文献も参照してください。

ピエール・ヴィラル 『スペイン史』(白水社、クセジュ文庫、1992年)

同上『スペイン内戦』(白水社、クセジュ文庫、1993年)

立石博高ほか『スペインの歴史』(昭和堂、1998年)

同上編『新版世界各国史 16 スペイン・ポルトガル史』(山川出版社、2000年)

関哲行・立石博高・中塚次郎編『世界歴史大系 スペイン史 1・2』(山川出版社、2008年)

楠貞義ほか『スペイン現代史 模索と挑戦の120年』(大修館書店、1999年)

野々瀬浩司

これまで研究してきた分野は、宗教改革史と近世スイスの農村社会史です。より具体的に言えば、宗教改革の新しい思想が当時の社会、特にスイスや西南ドイツの農村社会にどのような影響を与えたのかについて考察し、さらには1525年のドイツ農民戦争の思想的背景についても研究をしてきました。

卒論指導を引き受けることが可能な分野は、主に15世紀後半から17世紀までのドイツ・スイス・オーストリアなどのドイツ語圏の歴史ですが、それ以外の地域では宗教改革に関わる歴史ならば、卒論指導を担当してもかまいません。基本的には、ヨーロッパの近世史ないしは中世後期の歴史ならば、絶対に卒論指導を引き受けないという分野を設定しませんが、学術的なテーマとして成立するかどうかは判断基準とさせていただきます。

清水明子

私が専門とする分野は、ドイツ現代史とユーゴスラヴィア(クロアチア・ボスニア・セルビア)史です。特に、ナチス・ドイツによる支配がバルカンに与えた影響と地域社会の変容を実証的に再構成することが現在のテーマです。

卒業論文指導の担当範囲は、ドイツ近現代史です。指導を希望される場合は、具体的なテーマをある程度絞っておいてください。英語・ドイツ語文献などの活用を歓迎します。

基本的な文献としては以下のようなものがあります。適宜、読んでおいてください。

成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『世界歴史体系 ドイツ史 3(1890年～現代)』(山川出版社、1997年)

木村靖二編『新版世界各国史 13 ドイツ史』（山川出版社、2001年）
若尾佑司ほか『近代ドイツの歴史—18世紀から現代まで』（ミネルヴァ書房、2005年）
バーリー/ヴァッパーマン著『人種国家ドイツ -1933年 -1945年』（刀水書房、2001年）
芝健介『ホロコースト』（岩波新書、2008年）

長谷川敬

私の専門テーマは、帝政ローマ前期（前1世紀末～後3世紀前半）のガリアとゲルマニアにおける商人・職人のネットワークです。しかし、以下に列記する時代区分の範囲内であれば原則卒論指導を引き受けることが可能です。すなわち、古代ギリシャ（アルカイック期・古典期・ヘレニズム期）、カルタゴ、古代ローマ（共和政期・帝政期）、初期ビザンツ（5・6世紀）、初期中世（大陸ゲルマン部族国家）の各時代で、テーマももちろん商業に限定しません。

テーマ選定に関しては、基本的に学生のみなさんの希望を尊重します。但し、古代史の史料（文字史料）残存状況は非常に断片的且つ偏在的であり、時代・地域・分野によっては、卒業論文レベルどころか博士論文レベルですら研究困難なテーマも存在します（例えば、関連する史料が乏しい社会下層民など）。そうした「困難」テーマを希望する人には、面談の上、その人の関心に出来る限り即した別テーマを勧める場合もあります。また、古代史を学ぶ上では考古学的史料も重要な手がかりとなり、場合によっては文字史料の不足を補ってくれますが、本専攻は文字史料を中心に歴史を読み解く文献史学ですから、主要史料として文字史料が利用できるテーマを選択してもらうことになります。

その上で、卒論指導を希望する人は、以下の入門書・史料集を精読し、希望するテーマを事前にある程度絞り込んでおいてください。ちなみに、テーマ選定後、参考文献を読み進めるに当たっては英語が最低限必要となりますが、テーマによっては独・仏・伊・西の各言語が必要となる場合もあります。

伊藤貞夫・本村凌二編『西洋古代史研究入門』（東京大学出版会、1997年）
古山正人[他]編『西洋古代史料集』[第2版]（東京大学出版会、2002年）
周藤芳幸『古代ギリシア 地中海への展開』（京都大学学術出版会、2006年）
本村凌二『興亡の世界史4 地中海世界とローマ帝国』（講談社、2007年）

【民族学考古学専攻】

1. 民族学考古学専攻について

私たちの専攻では、文献のみならず、多様なモノを資料として歴史を研究しています。現在、専攻が保管する資料・標本類は国宝や重要文化財を含めて約20万点にのぼり、それらは幾多の発掘調査や民族調査を通して長年にわたって収集されてきたものです。私たちの専攻では、日本はもちろんのこと、東アジア、北アジア、西アジア及び欧州、オセアニアの多様な地域を対象に、旧石器時代から近現代まで幅広く研究が進められており、したがって学生の皆さんの卒業論文研究にも地域や時期に制限を設けておりません。ただし、共通の研究・教育方針として、フィールドワークと物質文化研究が重視されます。

2. スタッフ紹介

杉本智俊：

専門分野は南レヴァント（イスラエルとその周辺地域）の青銅器時代からローマ時代の考古学ですが、西アジア及びヘレニズム・ローマ世界を研究対象とする学生諸君全般の指導を引き受けます。

佐藤孝雄：

文化と自然を包括的に捉えることに努めつつ、北東アジアの第四紀史を研究しています。時代や地域を問わず、人と自然（特に動物）との関係史をテーマとする卒業論文の作成を指導します。

山口 徹：

オセアニアと八重山の島嶼世界をフィールドとし、自然の営力と人間の営為の絡み合いが生み出した歴史、いうなれば「景観史」をテーマに先史から現在まで幅広く研究しております。島嶼文化、ジオアーケオロジー、環境史、歴史人類学、文化人類学に関心のある学生諸君の卒業論文作成を指導します。

安藤広道：

縄文時代・弥生時代・古墳時代の遺跡・遺物、アジア太平洋戦争期の戦争遺跡を研究しています。これらの時代に関心のある人に対して、卒業論文の作成を指導します。

渡辺丈彦：

旧石器考古学、日本古代史、文化財行政学が専門です。これらの分野に関心のある学生諸君の卒業論文作成を指導します。

3. 参考文献

V.G. チャイルド『考古学とは何か』岩波書店

鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会

鈴木公雄『考古学とはどんな学問か』東京大学出版

C. クラックホーン『人間のための鏡』サイマル出版

- A. マザール (杉本智俊、牧野久実訳) 『聖書の世界の考古学』 リトン
- W. クロノン 『変貌する大地：インディアンと植民者の環境史』 勁草書房
- R. ワグナー 『文化のインベンション』 玉川大学出版部
- 保莉実 『ラディカル・オーラル・ヒストリー』 お茶の水書房

4. 専攻ホームページ

<http://www.flet.keio.ac.jp/~toru38/ethnoarch/>

第3類

【国文学専攻】

I 卒業論文作成にあたり、国文学を対象とするテーマを選択しようとする学生諸君は、下記の点に留意されたい。

1. 国文学を対象とする専門教育科目を2科目以上履修していることが望ましい(ただし、このうち最低1科目はスクーリングで履修していること)。
2. 卒業論文指導は初回を含めて3~4回以上受けることを原則とするので、指導開始から卒業まで2年間以上を予定しておくこと。
3. 初回指導を受ける前に、できるだけ文献や資料を収集しておくこと。また、居住地の大学図書館・公立図書館等における文献・資料の収蔵状況や、資料検索・閲覧の方法等についてあらかじめ確認しておくこと。
4. 卒業論文指導調査票の初回提出に際しては、論文の対象、テーマ、論旨などを具体的に示すこと。

II スタッフ紹介

- 佐藤 道生 : 古代・中世日本漢文学
栗本賀世子 : 平安時代文学
小川 剛生 : 中世文学、和歌文学
石川 透 : 物語・説話文学、絵本・絵巻
合山林太郎 : 漢文学、江戸・明治期文学
小平麻衣子 : 近現代文学
屋名池 誠 : 日本語学(国語学)

III 参考文献

慶應義塾大学藝文学会編刊『藝文研究・文献案内』の国文学専攻の部分を参照のこと(通信教育部で有償頒布)。

【中国文学専攻】

- 1 中国文学関係の科目のうち、「中国文学史」、「漢文学Ⅰ」、「漢文学Ⅱ」、「漢文学Ⅲ」については、履修済みであることが望ましいです。
- 2 中国語の語学能力は、卒業論文指導開始の条件ではありませんが、学習歴があることが望ましいです。特に中国言語学・中国現代文学をテーマとする学生は、過去に学習歴がない場合は、スクーリングなどで中国語を学習することをお勧めします。
- 3 卒業論文指導期間は、初回指導から卒業まで最短2年間を要します。
- 4 初回の指導を受ける前に、論文のテーマをできるだけ明確にし、関連資料を検索して、基礎的文献に目を通しておいってください。
- 5 中国文学専攻の専任教員が指導に当たります。以下に各教員の研究を簡単に紹介します。
 - 浅野雅樹（中国言語学）
現代中国語に関する語彙や文法を中心に研究しています。最近では、教材作成や語彙指導についての問題をテーマとした研究に取り組んでいます。
 - 杉野元子（中国近現代文学）
1930、40年代の中国文学を中心に研究しています。
 - 須山哲治（中国古典文学）
『滄浪詩話』を中心に、宋代の詩論を研究しています。
 - 高橋智（中国古典文献学）
中国古典全般に亘るテキストの成立や流布、解釈や受容など、古典籍の原典を分析整理し、作品と人間の関わりをグローバルに研究しています。
 - 松倉梨恵（中国近現代文学）
中国現代文学におけるジェンダー・セクシュアリティについて研究しています。
 - 吉永壮介（中国古典文学）
明代の白話小説『三国志演義』を中心に、正史・志怪小説・地誌等の伝承に見られる史実と虚構との揺らぎに関心を持っています。
- 6 参考文献については、慶應義塾大学藝文学会編『藝文研究・文献案内』を参照することをお勧めします。資料検索の方法、各ジャンルの基本的文献のリストなどが記されています。この冊子は、通信教育部で販売しています。

1 英語の運用能力について

英米文学分野は、外国語、外国文学を研究対象とするわけですから、当然のことながら、卒業論文作成のために必要なテキスト、研究書の類の多くは英語で書かれたものになります。よってこの分野で卒業論文を完成させるには、テキストの原典(英語の原文)を精読するとともに、相当数の研究書や論文を十分なスピードと正確さで読みこなす英語力を身につけていることが前提となります。卒業論文指導調査票を提出する時点で、少なくとも論文の対象として考えている分野の資料やテキスト(文学作品や研究書)を**原典で読了しているように**してください。日本語で読める文献のみの利用では、卒業論文は執筆できません。

2 論文のテーマについて

論文のテーマの設定に関しては、以下の点に留意してください。

英米文学、英語学関連の卒業論文は、通学課程と同様に、文学部所属のスタッフが中心となって論文指導をおこないます。現在のスタッフの専門領域は、イギリス文学、アメリカ文学、英語史、現代英語学(言語学)の諸分野に対応しています。それ以外の分野—イギリス、アメリカ以外の英語圏の文学や文化—については、卒論指導の担当者を見つけることが困難な場合があります。また、**英語教授法や学習法を中心とした英語教育関連のテーマは、英語学、言語学の枠組みにあるもののみ受け付けます。**(日本英語学会(<http://elsj.jp/>)等、言語学系の学会での研究発表のテーマや本専攻のウェブサイトにある通学生の過去の卒業論文のテーマなどを参考にしてください。)テーマ決定に際しては『卒業論文の手引き』に記載されている、英米文学専攻所属専任教員の専攻分野を参考にし、疑問点はオリエンテーションなどで学務委員に相談するようにしてください。

卒業論文はまず、テーマに関する文献資料を収集し、参照すべき文献の書誌(bibliography)を作成することから始まります。英語で書かれた文献を数多く利用することになりますから、資料の性質によっては国内・地元の図書館では閲覧が困難な場合があります。自分が考えているテーマのための資料収集に物理的困難がないかよく考え、疑問があれば卒業論文指導調査票提出前にオリエンテーションなどで学務委員に相談してください。

フィールドワークやアンケートなどの実地調査が必要とされるテーマを考えている場合には、自分が客観的結論を導き出すに十分な量の調査ができる環境にあるかをまず考えてください。

3 その他

英米文学専攻の卒業論文の執筆には、一回目の本指導から原則として最低2年間、4回以上の卒業論文指導を経なければなりません。平均的には3年程度を要します。また、一回目の指導が「予備指導」となる場合がありますが、「予備指導」は面接によって準備状況やテーマの詳細について確認するためのものです。結果として、テーマに相応しい指導教員を決定して次回より「本指導」に入る場合もありますが、卒業論文指導調査票の再提出となる場合もあります。

文学部第3類の専門科目のうち、英米文学、英語学関係の科目をなるべく多く履修してください。特にスクーリングで直接講義を受けることを奨励します。

卒業論文指導調査票の記入に際しては、テーマ決定にいたった個人的な経緯などを記すのではなく、何をどのような方法で研究したいのか具体的に書いてください。特にこれまでに読んだ英語の文献を、出版社、出版年まで正確に記してください。

英語学・英米文学分野の最新の文献案内が、文学部英米文学専攻のホームページ

(<http://web.flet.keio.ac.jp/englit/>)に公開されています。参考にしてください。

また、補助教材の『三色旗』に、下記のような卒業論文や英語力の向上に関連した特集等が掲載されていますので、参考にしてください。

(卒業論文作成の手引)「卒業論文を書く前に」(2010年9月号)

(特集)「言語史研究の楽しみ、言語史研究の苦悩」(2006年11月号)

(ラジオNIKKEI)「文献探索法入門」(2004年10月～12月号)

(特集)「文学・言語研究の新しい潮流」(2003年9月号)

(ラジオたんぱ)「語学入門講座(2)～(5)」(2002年1～4月号)

(ラジオたんぱ)「言語学への招待(1)～(4)」(2000年7～10月号)

(特集)「文学研究の方法と実践」(1997年8月号)

(特集)「レファレンス・ブックの活用法」(1996年2月号)

【独文学専攻】

① ドイツ語運用能力は原則として不要

ドイツ文学やドイツ文化、あるいはスイス、オーストリアの文学や文化について卒業論文を書こうとする方は、ドイツ語がまったくできなくてもかまいません。もちろん、ある程度のドイツ語の素養、たとえば初級終了程度のドイツ語の素養があれば卒業論文にも幅が出てきますが、そういった語学力がなくても、ドイツ語圏の文学や文化に強い関心をもっていればなんとか日本語文献で卒業論文は書けるよう指導するというのがドイツ文学専攻の基本方針です。

② 論文テーマの分野

原則的にドイツ語圏というのはドイツ、スイス、オーストリアを指します。卒業論文執筆希望者はこれらの国々の文学や文化の中から自分でテーマを探し出さなければなりません。その場合いつも問題となるのは、論文テーマがあまりにも大きすぎ、えてして総花的な、ただまとめたというだけの結果に終わってしまうことです。もちろん、そのような論文にも存在意義がないわけではありませんし、多くの論文がそのような形をとっていることも事実です。しかしできれば専門性を高め、限定された小さな問題に努力と識見を集中させて、それまでは明らかでなかった問題に、たとえどんなにささやかなものであれ、一筋の光をあてることができたとなれば、その論文は大成功であったといえるのです。ぜひこのような論文を目指してください。

それから自分の関心に忠実であること。論文制作は長い期間にわたる場合が多いですから、途中でいやになってしまうことのないよう、自分のもっともやりたいテーマをじっくり探し出してください。テーマは文学に限定されるものではありません。音楽や美術、建築や舞踏、哲学や思想、あるいは演劇や映画などにもテーマ選択の可能性を広げてください。ドイツ語圏にかかわるすべての文化現象が対象なのです。テーマ選択やテーマの絞り込みに困難を感じる場合は、指導教授が決定してからじっくり相談すると良いでしょう。

③ 指導教授の選び方

『卒業論文の手引き』や『文学部専任教員一覧』などを参考にして、自分が選んだテーマにもっとも近い専攻分野をもつスタッフを指導教授として選んでください。指導教授の選択は非常に重要です。したがって、その先生が担当するスクーリングはぜひとも出席して、その人柄や学問的方法、あつかっている領域などについて知識を得てください。そのような機会がない場合は、自分が関心をもつ先生の論文や著書などを一読することが必要です。大学図書館のオパックスシステムで検索したり、『文学部専任教員一覧』などの業績一覧を見てその先生の論文・著書などを読み、指導教授選択の前にかかわらずその先生についての知識を得ておいてください。

『文学部専任教員一覧』にも記載されているように、ドイツ文学専攻のスタッフは中世文化から現代思想にいたるまで幅広く学問領域をカバーしており、学生からの要望にはほとんど応えられるつもりです。ただ、特殊な分野や本専攻に適切な指導者が見当たらないときには、他学部のドイツ文学関係スタッフにも応援を求めることにしています。学生にとっては、専門家の指導がなによりだからです。ただし、それらの決定の際には学生諸君の要望が大きな要因となりますので、自分がどの先生の指導を受けたいのか、分野の問題はあってもドイツ文学専攻のスタッフの指導を受けたいのか、あるいは他学部に専門スタッフがいる場合にはそちらを選択するのか、明確に意思表示してください。

④ その他(文献と締め切り)

一般に研究文献は多岐にわたり、また膨大な数が存在しますので、卒論制作を開始するまえには、ドイツ文学史(どれでもかまいません)などのごく基本的な文献を読んでおけば十分です。もちろん、自発的に文献

を収集し、読み始めるということは良いことですが、指導教授との面接の際に、文献に関するさまざまな指示が与えられると思いますので、その指示にしたがって収集し、読み始めても決して遅くはありません。収集の仕方や読み方など、疑問点があればどしどし指導教授に質問してください。

また、自分で提出締め切りを設定することも重要です。いつ完成するかわからないものを作るというのは苦痛です。ぜひ自分で目標を設定してください。ただし、その時間的目標に縛られるあまり、雑な仕上がりに目をつむることがあってはならないでしょう。あくまでも目安として、できれば指導教授と相談しながら、提出締め切りを設定してください。

【仏文学専攻】

1. 仏文学専攻について

仏文学専攻で卒業論文を作成する場合、指導可能な領域は以下の通りです。

- ・近世から現代までのフランス文学（小説・詩・演劇・批評）
- ・フランス語圏の文学（とくにベルギー文学）
- ・フランスの文化、社会、歴史、思想
- ・フランス語学（統語論・意味論・語用論・対照研究・翻訳学・レトリック）

2. スタッフ紹介

2019年現在の専任教員および主要研究分野は以下の通りです。なお、分野やテーマによっては、他学部専任教員が卒業論文指導を担当することもあります。

- 荻野 安奈：16世紀フランス文学（ラブレー）
- 片木 智年：17世紀フランス文学・演劇・おとぎ話論
- 井上 櫻子：18世紀フランス文学・思想
- 小倉 孝誠：近代フランスの文学と文化史
- 築山 和也：19世紀フランス文学（ロートレアモン）
- 宮林 寛：19世紀フランス詩、ベルギーの仏語文学
- 市川 崇：20世紀フランス文学・思想
- 西野 絢子：20世紀フランス文学（クローデル）、日仏文化交流
- 峯村 傑：20世紀フランス文学（ジュネ）
- 芦野 文武：フランス語学（意味論・統語論）
- 喜田 浩平：フランス語学（意味論・語用論）

3. 卒業論文とは

卒業論文とは、学術論文です。学術論文とは、先行研究をふまえ、意味のあるテーマを設定し、明確な方法論に基づき調査や推論を重ね、根拠を挙げながら新しい事実を伝えたり独創的な見解を述べたりする文章です。したがって、あらかじめテーマが与えられるレポートとは違います。また、必ずしも根拠を挙げる必要のないエッセーや感想文とも大きく異なります。

4. 卒業論文指導

学術論文を作成するにあたり、最も重要な作業はテーマの設定です。上述のように、先行研究をふまえた上で意味のあるテーマを設定するのは簡単なことではありません。具体的で実現可能であり、しかも有意義で独創的なテーマを決めるのは学生一人の力では限界があるかもしれません。

卒業論文指導調査票を提出するまでに、まずは独力でテーマを設定し、ある程度まで参考文献を集めてください。担当者が調査票を精査した結果、テーマがあまりにも漠然として実現不可能だと判断した場合は「再提出」を促す可能性があります。なかなか良いテーマではあっても修正が必要であると判断した場合は「予備指導」を推奨し、第一回目の面談でさまざまなアドバイスをすることになるでしょう。

5. 卒業論文指導のための条件

仏文学専攻の教員の指導を受けながら卒業論文を作成することを希望する学生に対して、専攻として特に必修の科目(テキスト・スクーリング)を定めてはいません。各自の興味に応じて「文学」「フランス文学史」「フランス文学概説」などの科目を履修するといいいでしょう。また、語学科目のフランス語も必須ではありませんが、入門レベルのものだけでも履修しておく(あるいは独学しておく)とよいでしょう。

6. 推薦図書

テーマ選びの参考になりそうな文献を紹介しておきます。多くの場合、巻末や脚注で参考文献が言及されているはずですので、さらに詳しい文献を探すための出発点にするとよいでしょう。(*の付いたものは絶版ですが、インターネットなどで古書が入手可能な場合もあります。)

文学

- 『新版 フランス文学史』饗庭孝男(他編)、白水社 1992
- 『はじめて学ぶフランス文学史』横山安由美(他編)、ミネルヴァ書房 2002
- 『フランス文学小事典』岩根久(他編)、朝日出版社 2007
- 『フランス的思考』石井洋二郎、中公新書 2010
- 『フランス文学講義』塚本昌則、中公新書 2012
- 『フランス小説の扉』野崎歓、白水社【白水Uブックス】 2010
- 『文学作品が生まれるとき』田口典子(他編)、京都大学学術出版会 2010
- *『文学をめぐる理論と常識』アントワーン・コンパニオン [中地義和(他訳)]、岩波書店 2007
- *『フランス 17 世紀演劇事典』エイコス:17 世紀フランス演劇研究会(編)、中央公論新社 2011
- 『十八世紀フランス文学を学ぶ人のために』植田祐次(編)、世界思想社 2003
- 『ルソーを学ぶ人のために』桑瀬章二郎(編)、世界思想社 2010
- 『ヴォルテールを学ぶ人のために』植田祐次(編)、世界思想社 2012
- 『十九世紀フランス文学を学ぶ人のために』小倉孝誠(編)、世界思想社 2014
- 『二十世紀フランス小説』ドミニク・ラバテ [三ツ堀広一郎(訳)] 白水社【文庫クセジュ】 2008

文化・歴史

- 『フランスを知る 新〈フランス学〉入門』東京都立大学フランス文学研究室(編)、法政大学出版局 2003
- *『フランス文化史』(全3巻) ジョルジュ・デュビィ(他) [前川貞次郎(他訳)]、人文書院 1988-89
- 『〈子供〉の誕生』フィリップ・アリエス [杉山光信(他訳)]、みすず書房 1980
- *『見出された日本 ロチからレヴィ=ストロースまで』大久保喬樹、平凡社 2001
- *『明治の音 西洋人が聴いた近代日本』内藤高、中公新書 2005
- *『フランス文化 55 のキーワード』朝比奈美知子・横山安由美(編著)、ミネルヴァ書房、2011
- *『フランス文化読本 フランスを知るための 16 の窓』田村毅(監修)、丸善出版、2014

言語

- 『フランス語学概論』髭郁彦(他)、駿河台出版社 2011
- 『中級フランス語 あらわす文法』東郷雄二、白水社 2011
- *『フランス語の語彙と表現 一歩進んだ意味の世界』泉邦寿、バベル・プレス 1993

- * 『日本語の森を歩いて フランス語から見た日本語学』 フランス・ドルヌ（他）、講談社現代新書 2005
『翻訳 その歴史・理論・展望』 ミカエル・ウスティノフ [服部雄一郎（訳）]、白水社【文庫クセジュ】
2008
『レトリック』 オリヴィエ・ルブール [佐野泰雄（訳）]、白水社【文庫クセジュ】 2000